

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種の取組

1 ジャガイモシストセンチュウ

ばれいしょの重要害虫のひとつで、寄生すると甚大な被害を与える難防除害虫です。(奇主植物が現れるまで10年以上休眠状態を維持します。)鹿児島県にはまだ侵入の報告はありませんが、全国に被害が拡大しており、熊本県(天草地域)まで発生していることから、本県への侵入の危険性が高まっています。



シストセンチュウ被害ほ場

2 ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種試験

本県の既存品種は抵抗性がないため、ジャガイモシストセンチュウの侵入に備えて、県内各産地で県育成有望系統「しまあかり」(♀:デジマ×♂:アロー)の現地実証を行っています。「しまあかり」の形状は丸系の“短卵形”,皮色は“淡ベージュ”,肉色は“淡黄”となっています。



中晩生の「しまあかり」

品種名	ジャガイモシストセンチュウ	そうか病抵抗性	疫病抵抗性
しまあかり	抵抗性	やや弱	やや弱
ニシユタカ	感受性	弱	やや弱

ばれいしょの軟腐病対策

1 軟腐病発生抑制対策



茎葉の黄化(初期症状)



茎の褐変



塊茎(いも)の腐敗

(1)軟腐病にかかりやすい条件

温度が25~30℃,湿度が高く,排水不良,軟弱な生育,傷があることです。

(2)収穫後に実施すること

軟腐病のいもは,ほ場外に持ち出し,適切に処分しましょう。取り残したいもは,収穫後に時間をあけず,耕うん(すき込み)を行います。耕うんは浅くし,腐熟を促進しましょう。農業機械,農具は,使用後の洗浄を徹底し,作業は発病していないほ場から発病ほ場の順で行いましょう(発病していないほ場に菌を持ち込まない)。

(3)薬剤防除

薬剤による治療効果は低いので,雨の合間を見ての予防散布に努めます。特に,上の写真のような初期症状を発見したらできるだけ速やかに防除を行います。薬剤は茎(特に地際部)に付着するようにたっぷり散布しましょう。

(4)次年度対策

発病が多かったほ場での栽培は中止し,サトウキビ,飼料作物に転作します。軟腐病菌は乾燥に弱いので,夏場に4~5回耕うんし,作土層を暑い日射しで乾燥させることが重要です。さらに排水対策(深耕,額縁排水路)の徹底が重要ですが,プラウ耕する場合は野良いもが完全に腐熟してから行います。窒素過多による軟弱徒長が軟腐病の発生を助長するので,適正量の施肥を行います。